

新型コロナウイルス感染症は「自然のしっぺ返し」

新国 勇

いま、世界中を大混乱させている新型コロナウイルス感染症は、「人獣共通感染症」と呼ばれる動物由来の感染症である。発生から2年が経過しても、変異ウイルスが次々と発生し、終息する気配はない。感染者との接触を避け、ワクチン接種で感染を防ぐことで精いっぱいだ。しかし、それは対処療法でしかない。大流行を引き起こした原因を解明し、それを未然に防ぐ対策を見つけないければ、ふたたび同じことが起こるだろう。

人獣共通感染症は、ウイルスがもとと棲み処にしていたコウモリやネズミなどの自然宿主から、ウシやラクダといった家畜などの中間宿主を経て人間に感染して発症するようになったものだ。このようなウイルスを発生順にあげると、1976年：エボラウイルス、1981年：エイズウイルス、2002年：サーズウイルス、2012年：マーズウイルスなどがある。エボラウイルスの自然宿主はコウモリと言われているが、それにゴリラが感染し、感染したゴリラに人間が接触したために起きた。エイズウイルスは、コウモリからチンパンジーが感染し、それから人間が感染して広まった。サーズウイルスとマーズウイルスの自然宿主もコウモリであり、今回の新型コロナウイルスもコウモリが疑われている。これらは1970年以降、頻繁に発生するようになった。

発生件数が増えたのは、科学の発達によってウイルスを簡単に発見できるようになったということではない。人間による自然への開発行為が原因といわれている。未知のウイルスは、極地から熱帯まで数知れず生息し、本来ならおとなしく自然と共存していた。それが熱帯林を焼き払っ

て牧場や農園にしたり、荒野や湿地を埋め立てて工場にしたり、さまざまな野生動物をペットや食用にするという行為が、人間と野生動物との接触を容易にした。人獣共通感染症は、人間自らの行為が引き起こした「人災」ともいえる。それは人間による活動が地球温暖化をまねき気象災害を頻発させた構図とおなじだ。大量採取→大量生産→大量消費→大量廃棄という消耗の活動が続かぎり、「自然のしっぺ返し」にあう頻度はますます高まっていくに違いない。

新型コロナウイルス感染症の蔓延を抑え経済活動を再開するのは、喫緊の課題だ。しかし、その原因を把握し根本的な対策を講じなければ意味はない。その解決策を一言でいえば、「自然への過剰な介入は控える」ということだろう。

「人間が末ながく生きていくためには、生物多様性を守る」ということに尽きる。「なにを大袈裟な」と言う人もいるかもしれない。しかし、いま一人ひとりがその真実に気づき、生物多様性の重要性を認めて保全していくことが、今回のような大災害におちいることを防ぐ道につながっていくものと思う。

NEWS 「公益信託 福島銀行ふるさと自然環境基金」助成が決定

昨年夏に応募した表記2021年度助成が12月24日に決まりました。助成金は、数年来の懸案となっていた「ユビソヤナギ調査報告書」作成のために活用する予定です。



花 暦 調 査 2020

寄岩林道 調査報告

高原 豊 高原郁子

2013年からほぼ毎年、場所を変えて、環境省の里山モニタリングサイト1000の植物調査手法を用いて花暦^{はなごよみ}を作成しています。これまで、2013年は奥会津ただみの森キャンプ場、2014年は要害山、2015年は「季の郷湯ら里」周辺、2017年は蒲生岳山麓、2018年は癒しの森、2019年は黒谷林道で調査を実施し、2020年は寄岩林道で行いました(図1)。

寄岩林道は、只見の自然に学ぶ会で例年5月に野鳥観察を行っていたところですが、2020年から工事関係の大型車両が通行するようになったため、野鳥観察会の場所を変更しています。しかし花暦調査には支障がないと思われる

ため実施しました。

林道入口ゲートを入れて少し行ったところに駐車スペースがあり、そこへ車を停めてゲートまで戻り、脇の清水から大畑沢に架かるコンクリート橋までの約1.6kmを参加者全員で歩いて、つぼみ、花、実をつけた植物を記録しました。シダ類は発見時に名前が分かるものだけ、名前を調べるのが難しいイネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、コケ類および栽培種は原則として調査対象外としました。4月から11月まで毎月1回、のべ47名に参加いただきました(表1)。

今回の調査地は只見町の北部にあり、只見川右岸の山際に沿って設置されている林道で、標高はほぼ360mの上り下りのない平坦なコースです。片側を山側の斜面、反対側は只見川へ続く緩やかな傾斜地や崖となっています。林道入口は両側が落葉樹林に覆われていますが、しだいに川側が開けて、蒲生岳をよく眺めることができます。

調査により214種の植物が確認され、花暦を作成しました(表2)。前回の黒谷林道が188種、その前の癒しの森が124種でしたので、3年ぶりに200種を超えました。これは、開けた日当たりのよい所と落葉樹に覆われた日陰の場所、清水や山側の素掘りの排水溝、コンクリート橋が架かる溪流といった多彩な環境があったためと思われます。

只見町指定貴重動植物や日本海側に生育するものなど注



図1 調査コース

国土地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp>) を利用



4月の調査のようす

表1 調査日と参加者

調査日	天候	人数	調査者氏名
4月26日	晴れのち曇り	6人	新国勇、渡部和子、遠藤菜緒子、高原郁子、高原朗、高原豊
5月23日	晴れ	8人	新国勇、新国いづみ、渡部和子、星美弥子、今関真貴、高原郁子、高原朗、高原豊
6月14日	曇りのち雨	6人	新国勇、渡部和子、鈴木サナエ、高原朗、高原郁子、高原豊
7月19日	晴れ	5人	新国勇、渡部和子、高原郁子、高原朗、高原豊
8月23日	曇りのち晴れ	7人	大宮明、菅原孝、新国勇、星千絵、星千文、高原郁子、高原豊
9月13日	晴れ	5人	新国勇、渡部和子、今関真貴、高原朗、高原豊
10月4日	くもり	6人	菅原孝、大宮朗、新国勇、高原郁子、高原朗、高原豊
11月8日	くもり	4人	新国勇、高原郁子、高原朗、高原豊
計 8回		のべ47人	

目すべき植物は9種(表3)で、このうち、県のレッドリストに該当する植物は1種だけでした。前回の黒谷林道では14種でしたので、かなり少ないです。対して、警戒すべき外来種が5種と、前回と同数ですが、過去最多でした(表4)。林道工事などにより、人の活動の影響をかなり受けているものと思われます。黒谷林道と同じくオオハングウソウ(緊

急対策外来種)が確認され、セイタカアワダチソウも見られました。両種とも、花が大柄できれいなのですが、繁殖力が強く、在来の植物を駆逐してしまうことがあるため、除去することが必要だと思われます。

カタクリなどの春植物が見られたほか、マタタビなどのつる植物やキイチゴ類なども多く、林縁部の植生とともに

表2 寄岩林道の花暦

種 名	調査月	4	5	6	7	8	9	10	11
フキ									
マユミ									
カタクリ									
タネツケバナ									
オランダガラシ									
アオイスミレ									
オニタビラコ									
エゾエンゴサク									
エゾタンポポ									
オオタチツボスミレ									
オノエヤナギ									
キクザキイチゲ									
コシノコバイモ									
スミレサイシン									
ヤマエンゴサク									
ヤブニンジン									
ホクリクネコノメ									
ケアブラチャン									
エンレイソウ									
キブシ									
キケマン									
ニリンソウ									
カキドオシ									
マムシグサ									
ツボスミレ									
ムラサキサギゴケ									
ユキツバキ									
オオバタネツケバナ									
コハコベ									
ヒメオドリコソウ									
ミミナグサ									
ミツバアケビ									
ヤナギタデ									
ヤマブドウ									
ヨツバムグラ									
ニワトコ									
ラショウモンカズラ									
オニヤブソテツ									
スギナ									
シロヤナギ									
ウミズザクラ									
セイヨウタンポポ									
ノミノフスマ									
スイバ									
ホオノキ									
ハウチャクソウ									
イヌガラシ									
コオニタビラコ									
サワグルミ									

種 名	調査月	4	5	6	7	8	9	10	11
サワハコベ									
タチシオデ									
タニギキョウ									
ヒロハコンロンソウ									
フジ									
ミズキ									
モミジイチゴ									
クマイチゴ									
ヤマグワ									
タニウツギ									
コマユミ									
マルバゴマギ									
ケナシヤブデマリ									
オドリコソウ									
ウワバミソウ									
コナスビ									
ヤマノイモ									
ヒメジョオン									
オオハナウド									
サワフタギ									
キュウリグサ									
ツタウルシ									
ヒロハノツリバナ									
コシジシモツケソウ									
ツルアジサイ									
ノイバラ									
ハルジオン									
ジュウモンジシダ									
オオバボダイジュ									
サワシバ									
トウグミ									
ヒメザゼンソウ									
ヒメコウゾ									
ツリバナ									
オニグルミ									
ナワシロイチゴ									
エゾノギシギシ									
サイハイラン									
ケキツネノボタン									
アオホオズキ									
オオニガナ									
カワラナデシコ									
キショウブ									
サルナシ									
シロツメクサ									
テリハノイバラ									
ハハコグサ									
ドクダミ									
ミツバツチグリ									

つぼみ
花
つぼみと花
実
花と実
つぼみと花と実
胞子葉

種 名	調査月	4	5	6	7	8	9	10	11
エゾアジサイ									
サワヒヨドリ									
シオデ									
トリアシショウマ									
オカトラノオ									
タケニグサ									
マタタビ									
ヤマヤブソテツ									
オニツルウメモドキ									
アケビ									
オオカメノキ									
ギンギシ									
ミズタビラコ									
カエデコロ									
カタバミ									
ネジバナ									
ミゾホオズキ									
ヨツバヒヨドリ									
ウド									
ヒメムカシヨモギ									
ミズヒキ									
サワオトギリ									
ミヤマイラクサ									
ムラサキツメクサ									
アカソ									
ウマノミツバ									
ノブドウ									
イタドリ									
キンミズヒキ									
オトギリソウ									
クズ									
ミツバ									
ミヤギノハギ									
ヤマニガナ									
オオウバユリ									
オニドコロ									
ヌルデ									
ヒカゲイノコズチ									
オトコエシ									
クルマバナ									
アキノノゲシ									
サラシナショウマ									
オオバコ									
コボタンヅル									
ミズタマソウ									
アレチマツヨイグサ									
イストウバナ									
イラクサ									
オオハンゴンソウ									
オヒシバ									
ネナシカズラ									
ハンゴンソウ									
ボタンヅル									
メヒシバ									
ヤハズソウ									
ヤブツルアズキ									
ススキ									

種 名	調査月	4	5	6	7	8	9	10	11
チヂミザサ									
ゲンノショウコ									
カントウヨメナ									
ツユクサ									
ミゾソバ									
キツリフネ									
アカネ									
オッタチカタバミ									
アキカラマツ									
ツルニンジン									
ヌスビトハギ									
ツリフネソウ									
シラネセンキュウ									
ナンブアザミ									
カラハナソウ									
ヨモギ									
ママコノシリヌグイ									
ヤエムグラ									
キリ									
ノアズキ									
エノキグサ									
メマツヨイグサ									
ツルフジバカマ									
ミヤマヤブタバコ									
ムカゴイラクサ									
ヤブマメ									
カナムグラ									
サワアザミ									
トウバナ									
ハナタデ									
タイリンヤマハッカ									
メナモミ									
アキノウナギツカミ									
クロバナヒキオコシ									
アオミズ									
ヒヨドリバナ									
イシミカワ									
エノコログサ									
キンエノコロ									
ヒメグelm									
チカラシバ									
ヒメジソ									
スズメウリ									
アキノキリンソウ									
コウゾリナ									
タニソバ									
ユウガギク									
アメリカセンダングサ									
コケオトギリ									
ノコンギク									
オオイヌタデ									
カワラハハコ									
ヤクシソウ									
コブナグサ									
セイタカアワダチソウ									
ツルマサキ									
ヨシ									

■ つぼみ
 ■ 花
 ■ つぼみと花
 ■ 実
 ■ 花と実
 ■ つぼみと花と実
 ■ 胞子葉

只見川の流れや河畔林、蒲生岳の景観も楽しめるコースでした。

この花暦が、自然観察の一助となるとともに、自生の植物がいつまでも残っているように見守っていただければ幸いです。調査に参加いただいた皆さん、天気が悪い日もありましたが、その中でも調査いただき、大変ありがとうございました。

〈参考文献〉

会津只見の自然～只見町史資料集第4集【植物編】(只見町史編さん委員会, 2001)、学ぶ会通信vol.9～14(只見の自然に学ぶ会, 2015～2020)、改訂新版日本の野生植物1～5(大橋広好ほか, 平凡社, 2015-2017)、環境省ホームページ(<https://www.env.go.jp>)、国立環境研究所ホームページ

(www.nies.go.jp)、福島県ホームページ(<https://www.pref.fukushima.lg.jp>)



エンレイソウ(4月)



タニギキョウ(5月)



クマイチゴ(5月)



オドリコソウ(5月)

表3 寄岩林道の特徴的な植物・注目すべき植物

種 名	科 名	日本固有	特 徴 等
カタクリ	ユリ科		只見町指定貴重野生動植物
コシノコバイモ	ユリ科	●	只見町指定貴重野生動植物、日本海要素の植物、準絶滅危惧種(福島県)
ケアブラチャン	クスノキ科		日本海要素の植物
ユキツバキ	ツバキ科	●	日本海要素の植物
エゾアジサイ	アジサイ科	●	日本海要素の植物
コンジシモツケソウ	バラ科	●	日本海要素の植物
スマレサイシン	スマレ科	●	日本海要素の植物
タイリンヤマハッカ	シソ科	●	日本海要素の植物
タニウツギ	スイカズラ科	●	日本海要素の植物



ケナシャブデマリ(5月)

表4 寄岩林道の生態系被害防止外来種

定着を予防する外来種		
該当なし		
総合的な対策が必要な外来種		
総合的な対策が必要な外来種		特に問題となる地域や環境
緊急対策外来種	オオハンゴンソウ	湿原や林床 ※特定外来生物
重点対策種	セイヨウタンポポ	自然草原や高山
	セイタカアワダチソウ	
その他の総合対策種	ヒメジョオン	山地や亜高山帯の草原
	アメリカセンダングサ	湿地



オオハナウド(5月)

環境省ホームページ:生態系被害防止外来種リストより
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>



初夏を思わせる寄岩林道(5月)



マタタビの雄花(7月)



オオヤマモミジの紅葉と蒲生岳(11月)



ネナシカズラ(8月)



カラハナソウ雌株の果穂(9月)



外来種のセイタカアワダチソウ(11月)

NEWS

新潟県内の自然公園での除草剤の使用が禁止に

朗報です。新潟県内において、今年度から自然公園内の道路での除草剤の散布が禁止されることが決まったそうです。2021年5月28日発行の新潟日報に掲載されました。

国道252号、六十里越雪わり街道、新潟県側の沿道に除草剤がまかれたのは、2020年初夏のことです(学ぶ会通信15号参照)。ここは、越後三山只見国定公園内です。風光明媚な自然公園内に除草剤がまかれ、ブナの稚樹を含む草木が赤茶けた酷い状態となっていました。

発見してすぐにメーリングリストで報告したのは熊倉彰さんでした。その後、確認に行き顔を真っ赤にしたのは、わたしです。さっそく新潟日報の記者に連絡して取材に来てもらい、実態を大きく報道してもらいました。

社会喚起してもらった効果は絶大でした。結果は、新聞報道のとおりです。自然環境の保全運動は、なかなか成果がでないものですが、今回はうまくいきました。やはり、時代は変わったとつくづく感じています。(新国 勇)



新潟日報(5月28日)

2021 年活動報告

活動報告一覧 2021.1-2021.12

- 2月11日 『学ぶ会通信』 vol.15 発行・発送
2月12日 学ぶ会ホームページ更新 (2020年の活動を追加)
4月11日 役員会 参加6名(代表宅)
4月25日 春植物と野鳥観察会 黒谷 参加9名
4月27日 『福島県只見町の花暦』発行
6月13日 役員会 参加9名
7月11日 役員会 参加6名(代表宅)
7月20日 総会資料発送
11月21日 飯塚恒夫「わが半生を語る」講演会 朝日振興センター 参加36名
花暦調査 檜戸沢林道
第1回 5月16日 参加6名(野鳥観察会を同時に)

- 第2回 6月13日 参加9名(終了後役員会)
第3回 7月13日 参加6名
第4回 8月8日 参加10名
第5回 9月13日 参加7名
第6回 10月10日 参加11名
第7回 11月7日 参加7名

新型コロナウイルスの影響に伴い

予定していた次の活動を中止しました。

- 水鳥観察会と定例会(1月17日)
- 2021年度総会(6月予定)
- 20周年記念事業 福島県先生講演会

〈発行物〉

学ぶ会通信 vol.15 A4判20ページ・オールカラー
福島県只見町の花暦 A5判本文48ページ・オールカラー

春植物と野鳥観察会

4月25日 黒谷林道～黒谷発電所 参加9名

当日は雨の予報でしたが、観察会の間だけ奇跡的にやんでお日さまが出た瞬間も。

黒谷林道のフクジュソウ群生地は、ちょうど見頃でした。斜面上部は雪解けが早いので、すでに花弁が落ちて丸坊主になっていましたが、林道の下は咲き始めもありました。一方でカタクリやキクザキイチゲ、ミヤマキケマンはつぼみが多く、お天気が悪かったので開いていないものも多く見られました。エゾエンゴサクやキバナノアマナはこれからのようでした。

さて、野鳥はというと…。



黒谷林道のフクジュソウ群落



林道からなにやら観察中

代表の強い思い入れが伝わったのか、クマタカが出ました！ しかもサシバも同時に！ 他に鳴き声でミソサザイ、ヤマガラ、ヒガラ、コガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、エナガ、ヒヨドリなどを確認できました。



ブナの混合芽

黒谷発電所周辺でユビソヤナギを観察したのちに、発電所の脇で昼食をとり、食後に古川さんおすすめのブナ林を見るために奥に続く林道を少し登りました。眺めがよく対岸に新緑のブナ、足許に桜並木の素晴らしい景色が見られました。ブナ林では、落ちたブナの枝にたくさんの混合芽がついていました。今年のブナは豊作かもしれません。

春のエッセンスを堪能した1日でした。(遠藤菜緒子)

飯塚恒夫「わが半生を語る」講演会を開催

11月21日 朝日振興センター 参加36名

講師：飯塚恒夫さん(元只見町教育長)

昨年、今年と計画しながら実現できなかった講演会がとうとう開催できる運びになりました。講師の飯塚恒夫さんは、只見町を代表する文化人。米寿を過ぎた現在でも確固たる信念のもと、町の文化向上に貢献されています。

「20代前半までの過ごし方で人生が決まる」と言われるけれど、飯塚さんもそのとおриと思う。10代から20代にかけていろいろな人に出会い刺激を受けている。文学に目覚めさせてくれた人が、会員の月田礼次郎さんのお兄さんとは！ 恩師の渡部政吉さん、森登貴次郎さんは、地域の歴史や文化を掘り起こし広めた人だ。



講演される飯塚恒夫さん



たくさんの人がつめかけた講演会

役場時代、やることなすこと初めてのことばかり。時代は、東京オリンピックからバブル期へ。青天井の膨張期だった。最初の町振興計画を策定したり、労働組合を結成するなど、さまざまな困難や障壁とぶつかりながらも、成就していく姿は、昭和・平成のフロントランナーであり、「只見の生き字引」的な存在です。いずれにしても、触発される講演会でした。

想定外の36名もの参加者を迎え、レジュメもイスも机も足りないくらい。2回も先に延ばした甲斐がありました。

(新国 勇)

追記 今回の講演会は、動画が撮影されネット配信されました。また、収録DVDと音声を記録したCDもあります。珊瑚さんをはじめ複数の会員の手によるものです。ネット配信は限定公開となっています。DVDとCDは代表宅で貸し出すことが可能です。お問い合わせください。

『福島県只見町の花暦』発行

A5判本文48ページ・オールカラー

本書は、只見町で気軽に植物を観察できる6つのコースを歩き、そこで花や実がいつごろ見られるかをまとめたものです。

只見の自然に学ぶ会では、2013年から1年に1か所の調査を行い「学ぶ会通信」で報告してきました(2016年をのぞく)。今回、本会の発足20周年記念事業の一つとして、2013年から2019年にかけての6か年分、6コースを再編集して刊行したものです。

〈紹介の6コース(もくじから)〉

雑木林の花を楽しみたい 奥会津ただみの森キャンプ場

山地の花を楽しみたい 要害山

里山のブナ林を楽しみたい「季の郷湯ら里」周辺

里山の花を楽しみたい 蒲生岳山麓

ブナの森を楽しみたい 癒しの森

なだれ地の花を楽しみたい 黒谷林道

本書は、町内の学校のほか、県内関係官庁、図書館、博物館、マスコミなどに寄贈しました。

学ぶ会のホームページ(<http://www.fukosya.com/manabu.html>)で全ページを見ることができます。また、1冊700円(送料込)で頒布もしています。ホームページ等からお申込みください。



『福島県只見町の花暦』の表紙と裏表紙

会員からの只見自然情報 2021

学ぶ会メーリングリスト(2021年1月～12月)より

1/2 雪の造形展

けさのおらいの泉水(池)の様子。坪山の松から伸びた紐に雪がついで大した太くなってる。この写真のは特別太え。直径20cmもある！写真撮った後、すんま雪が落ちじあったども、太蛇のように太がった。イサム



1/3 厳寒期の野生動物を見て来たぞや

かなり久々に晴れたんで、さっそく野生動物の探索開始。川向こうの林から、キュルキュルという聴き慣れない鳴き声。鳥ではなしと双眼鏡で探していると、コナラ林の梢で、さかんに動き回るニホンザル1頭を発見。ほかの群れは、林が混んでいて確認できず。しばらく、見っちら、曽根(尾根)の下さ黒いかたまり発見。これはちっと体が黒いニホンカモシカ。

サルもカモシカも、どっちも木の芽を食ってだっけ。そだ、うめえもんではなさそうだども、命をつなぐには文句は言ってらんにえべな。イサム

1/6 雪えくぼと流れえくぼ

寒中だっちゅうのに、一面の「雪えくぼ」。ほんとは、春先に出んだども、きんときょうは、あったかすぎたんだべな。



雪原さ、できるのが「雪えくぼ」。雪の斜面さ、できるのが「流れえくぼ」。これは、山の斜面さ、できた流れえくぼ。

イサム



1/10 カンバチの巣!

只見湖わきの電柱さ、カンバチ(スズメバチ)の巣があっけ。冬になって、あたりさ、色がなくなってくつと、めっけられんな。イサム



1/10 泉水からヤマドリ!

背戸(家の裏手)の泉水ん中さ、雪がいっぺえ入って、雪の山になっちまった。シャボロ(スコップ)で雪をのけていだら、黒いかたまりが出てきた。ヤマドリのオスだんねえがや。山側を流れる用水堀さ落ちて、上がれなくなっちまったんだべな。

いままで、タヌキ、ハクビシン、ノウサギは、流れできたごとあつとも、ヤマドリは初めてだあ。イサム



1/14 たいした美しい鳥!

これ、ウソ。たいした美しい鳥だべした。黒・紅・白の配色がなんとも秀逸。写真撮りながら、しばし、うっとり見とれだずや。きんな、元教育長のI氏が、「町民体育館の上の方で、ドンちゅう音したと思ったら、ポトッと落ちて来

たっけ」どって、まだあったかいあなを持ってきてけやった。



1000mがら上の亜高山帯に登ると、フィー、フィーどって、口笛のような鳴き声がする。これがウソ。むかしは、口笛を吹くごどを「うそぶく」どって言うていじゅう。そんじえ、口笛のように鳴くこの鳥のごとを「ウソ」ど呼ぶようになったちゅうごんだ。ちなみに、あっちこっちの神社でやってる「ウソ返し」の神事は、この鳥を使ってる。1年間ついだ嘘をこの鳥を奉納すつこどで帳消しにしでもらうんだ。ウソにとっては、口笛がら嘘に変えられちえ、迷惑な話。イサム

1/17 雪の花

冬、裸の木の梢さ、雪が純白の花を咲かせたように点々と載さってる。おらは、これを「雪の花」どって呼んでる。この写真は、街頭の光を浴びた夜の雪の花。日中、快晴の青空のもとで見る雪の花もいいもんだ。イサム



1/21 霧氷!

今朝の気温はマイナス13度。池にも、ぜーはる(氷が張る)ほどの寒かったぞや。樹には霧氷がびっしり! そんじえ、きょうの一押しはコレ! シダレザクラに咲く霧氷。圧倒されるほどきれいだったぞやい。



これはアカマツについた霧氷。おー、うつくしい！
イサム



1/22 ビストロ叶屋から 見られる光景

これは「ビストロ叶屋」(会員の伊豆さんご夫婦が経営)から見た光景。絶品のフレンチ&イタリアン料理が楽しめる只見自慢の店だども、ここからは、クラシシ(カモシカ)がよく見られるぞや。



山の斜面をジグザグにラッセルした跡があっぺや。クラッポは、樹の根元あたりで休んでいんでねえべが。伊豆さん、よーく見ででけやれな。イサム

1/23 鳥みっけ

叶津番所の庭は砂利に消雪を出しているので、たまに鳥が水を飲みにやってきます。今日はタンギ(?)を初めてみました。くちばしナガー！



先日はアオゲラが馬屋に入りこんでま

した。雪のなかで食べ物探してたくましく生活している鳥たちを見習って冬を乗り切りましょうね。こずえ



まっと、早く教えつけろ！タンギだったら、初記録！ すんま、飛んで行ったのに！
イサム

1/26 かたゆきわたり

今朝はばっちり、今年初のかたゆきわたり。寒い朝はぜひ楽しんでください。

和子
写真がついてなかったんで、追加しておくぞや。
イサム



2/9 ベニウソだんねーがや！

大雪のなか、おらいの^{めえーって}前っ手のソメイヨシノの木さ、ウソの群れが集まってだっけ。オス、メス混ざって10羽くれえがな。桜の芽をボリボリ食ってんだが、どーも、腹まで赤えあながいる。これって、ウソの亜種の「アカウソ」っちゅうあんだんねーがや。たぶん初記録！「やったー」どって一人ほくそ笑んだオラです。
イサム



2/12 堅雪と雪えくぼ

今朝は、ガンガチの堅雪。そして、大雪の後に、雨が降ったんで、雪原全部が雪えくぼ。これだけ一面の雪えくぼは、見事！

雪えくぼを撮ってたら、道路の土手の

上さ、一直線の足跡。これは、^{昨日}ぎんなの夜、歩いた跡だべな。ずっぽりどぬかつてんもんな。
イサム



2/12 ニホンザルの群れと ヨシガモ

只見湖で、カモ見っちゃら、後ろの山の方から、バキッ、ボキッちゅう音がする。振り返って見でみたら、ニホンザルが木の枝や雪のなかさ、いんでねえの。10匹くれえがな。

身体の色はブナの樹皮とおんなじで目立たねえども、ツラど尻は、真っ赤でよく目立つ。仔ザルが、母ザルの後を追ってめげえがったぞや。



サルを見つける前まで、見でいたカモ。^めヨシガモどっちゅう。金属光沢に光るナポレオン頭と尻尾の上さかぶさった養毛が特徴。きれいだべした。イサム



2/13 つかの間の日光浴

きょうは、あったかくて春のよう。山の動物たちも、つかの間の日光浴。今回、四つ足を伸ばしてくつろいでるクラッポをはじめて見た。
イサム





2/20 雪の壁と 豪雪地のイノシシ

ここは叶津字中ノ平の国道289号。積雪4mの見上げる高さ。さすが天下の豪雪地だべした。



イノシシやシカは、雪のなかでは動きがとれねえが、豪雪地では冬は越せねえどって言わっちえだっけが、間違いだな。このラッセル跡は、イノシシだ。叶津川を中ノ平橋で渡り、山ん中さ、まっしぐら。雪ん中에서도猪突猛進。

イサム



2/22 カップル誕生

カンムリカイツブリのカップルが誕生。ここは只見湖。繁殖羽に変わって結婚準備も万全。お互いに向き会って、頭と首を使ってハート型をつくってだっけ。まわりは雪だらけだとも、熱っちえーずや。ごちそうさまでした。

イサム



2/22 雪まくり

何でこのような形になるのか、不思議ではある。昨日の毘沙沢林道で…。



軽自動車のタイヤほどの大きな物と、目を凝らさないと見過ごしてしまいそうな無数の可愛いものたち。 毘沙沢

2/27 備えあれば、 運はついてくる

夕方近く、ちょこっと用足しに出っぺどした。「待てよ、カメラがねえ」と思って戻って、カメラを持ち出した。用事が済んで、家さ帰る道中、電線さヤマセミが2羽とまってんでねーの。車をバックさせて撮ったあながこれ。時間にして2、3分ぐれえであんめーが。このワンショットを撮ったあと、飛び去っちゃった。

教訓。どだ時にもカメラは離してなんねえ。

イサム



2/28 カナツクリ

叶津口留番所の軒先さ、できたカナツクリ。むかしは、これより、まっと、でっけえあな、できできた。茅屋根のカナツクリは、すうりとしてねえで、ゴツゴツしてつつおな。

イサム



3/3 ヤッホー! マヒワ!

おらいの車庫さ、落ちてたマヒワ! メスだんねーがや。いっつも、数十羽の群れで飛んでんだとも、なんで車庫さ、入ったんだべな?



群れがらはぐれて、吹雪を避けて車庫さ迷い込んだら、出られなくなっちゃってお釈迦になったか? しっかし、めげえ鳥だべした。

イサム

3/3 サザンシェイクド ロックマウンテン

旧友から送られたきた南極最高峰の山脈。夕暮れの写真だっちゃう。地球ではない雰囲気。



なーんて、嘘だぞや。

これは、おらいの蔵の軒下さ積もった雪を下から仰ぎ見た写真。午後5時撮影。なかなかいい形だべした。

イサム

3/5 ムクドリ夫婦

ムクドリっちゅう鳥は、まったく夫婦仲がいい。只見さ到着後、すんまカップルをつくる。あとは、木に止まって休むときも、エサを採るときも、いっつも一緒。オシドリなんかより、まっと引つついで。「オシドリ夫婦」より「ムクドリ夫婦」って言った方がいいがもしんにえ。この熱々関係は、求愛、巣作り、抱卵、育雛、巣立ちまで続くようだ。上がオス、下がメスだぞや。

イサム



3/10 朱色の花

叶津番所の茅屋根に赤い花? 苔か? コアカミゴケという地衣類だそうです。ちっちゃいけどとても綺麗な朱色をしています。

こずえ



3/14 グライド地形

いま、只見のあっちこちで見られる景色。山の斜面さ降り積もった雪に「クラック」どっちゅうヒビが入って、そこから分厚い雪の層がずりどすべり落ちる。これが「グライド地形」っちゅう岩だらけの急斜面となる。グライドとは「ゆっくりすべり降りる」意味。わかりやすく言えば、濡れた布団をベタッと引っ張り下ろすような状態。このズルズルどっちゅう侵食作用で山の斜面を削り取る。

雪食地形っちゅうは、多雪によって削られた侵食地形を総称する用語なんだ。雪食地形には、「グライド地形」のほかにも、「アバランチ・シュート(なだれ道)」「筋状地形」「雪窪」ちゅうあなもある。グライド地形は雪の移動による侵食、アバランチ・シュートや筋状地形はなだれによる侵食でできる。只見の場合、よく見てみっど、だいたいほとんどの斜面は、グライド地形であらめえがど思ってる。 イサム



3/19 只見を代表する動物

「只見を代表する動物は？」どって聞かっちゃら、迷わず「イヌワシ」って言うべな。ツキノワグマやニホンカモシカはシンボルにはなんねえ。こいつらは、どごさでもいる。「イヌワシがいる」どっていったら、これは自慢できる。なんしえ、日本国内ではめったに見られんにえ鳥だ。



これは、きょう撮ったあな。若え鳥だ。場所は言わんにえども、人家近くの上空を飛んでだんだ。こだ、超レアなワシが、人里で見られるどこは、日本広しといえども、只見ぐれえだど思う。ふつうにしでたら、分がわねえべな。はるか上空を飛んでっから。その気になって見てみねえど、見つけらん^めにえ。深山幽谷の鳥だども、こだ里さ出てくるっちゅうことは、只見は山奥だっちゅうごんだべな。 イサム

4/2 イヌワシとクマタカ

イヌワシは北半球の中緯度地域に広く棲んでいっとも、クマタカは東南アジアから日本ぐれえしかいねえらしい。んだから、世界的にいえば、イヌワシはふつうにいる鳥たども、生息地の限らっちゃクマタカは珍しい鳥といえつつおや。日本はその逆で、イヌワシの方が珍しくて、クマタカはけっこう生息しでる。

その理由は、イヌワシは草原で狩りをする鳥で、クマタカは森林で狩りをする鳥なんだ。もともと、イヌワシはでつけえがら、小回りはきかねえ。そんじえ、岩山どが原っぱみでえなだっ広(びろ)い場所でのハンティングを得意とする。イヌワシより一回りちっちえクマタカは、森林内を縫うように飛び回ることができるんで、森林でのハンティングがうまい。

いまの日本は、里山が放棄されて山が森林化しでる。草刈場や牧野が、なくなっぺや。こだ森林化は、クマタカには良好な生息地になっとも、イヌワシにとっては、ますます棲みにくくなっしまったんだべな。

んじゃども、只見は雪食地形の宝庫だがら、山は岩山どか、なだれ地、草地、低木、高木どがバッチ状に分布しでる。天然に開けた解放空間は、イヌワシにとっては棲みやすい場所になっただ。また、クマタカにとっても、植生がモザイクのようになってるもんで、こっちも棲みやすい環境どいえる。と

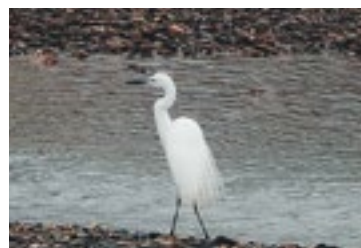
いうわけで、只見にイヌワシとクマタカが多く生息しているのは、雪が山々を侵食して棲みやすい天然の生息環境をつくっているからだど思っつつおや。ちなみに、この写真は、きょう飛んでいだクマタカの成鳥だぞや。かっこいいべや。 イサム



4/4 ダイサギのおしゃれ

常盤橋下流の川岸さ、いつもいるダイサギ。何気なしに見てみたら、あれま、夏羽になってる！

夏羽は繁殖羽ども言う、後頭に長え冠羽、肩がらはきれえな飾り羽が生えでる。体全体にかかってるので、これを「蓑毛」どっちゅう。蓑ちゅうより、レースみでえだな。そんで目先はコバルトブルーにお化粧済み。こんじえ、メスの気を引いて結婚を迫っぺえちゅうわけだ。世の男性諸君。見習うべな(おらは、ねっかはあ、繁殖期間はとくに終わったどもな)。 イサム



4/7 カタクリ開花

カタクリが本日開花しました。小屋の南側、除雪してあったので、早くから地面が見えていました。昨年の第1号は3月31日でしたが、その場所はまだ雪の下です。 スガワラ



4/13 太陽の木

昨年秋、クマが登ったスモモの木を切り倒したら、鮮やかな太陽が現れました。 毘沙沢



4/15 雪原のキタコブシ

ここは、只見ではいちばん雪が深えどって言わちえる蒲生集落。一面の雪原のなかで、キタコブシの花が真っ盛りだっけ。白に白だども、青空が格別きれいだった。今年は、キタコブシの花付きがいい。抜けるような青空さ、純白の花がびっしり。満天の星空のようだ。 イサム



4/17 サンショウウオ産卵

クロサンショウウオの産卵を昨日の夕方に確認しました。写真は今朝撮影。今までで一番早い報告と記憶します。周辺には未だ雪が残ります。 毘沙沢



4/17 マイマイカブリ

見慣れない虫が家の中に。マイマイカブリ。オサムシという甲虫の仲間。変

変わった名前は幼虫がカタツムリを専門に食べることに由来し、成虫はカタツムリをはじめ昆虫の死骸などを食べ、樹液にも集まる。羽の一部が退化しており、空を飛べないそうです。地域によって色が変わるそうで、茄子色の胴体、緑がかった黒いお尻、ツヤツヤした黒い足、只見のは渋い色あいです。茅の中で冬越しでもしたのでしょうか。触ると酸臭のある液体を出すそうなので気を付けてけやれ。 こずえ



4/22 いまヤナギ林がきれい

「まち湯」対岸の黒沢川出合のヤナギ林です。夕方5時ころ犬の散歩で撮りました。斜光を受けてレモングリーンが鮮やかです。 クマクラ



4/28 しめ、シメ

しめ、しめ。シメ、ゲット！
叶津番所のこずえちゃんが連絡くっちえ手に入れたずや。番所の窓ガラスにバードストライクしたらしい。シメの風切り羽の飾り羽をじっくり手にとってみたかったんだ。第一報をオラに知らせてくっちゃ、こずえちゃん、サンキューです。 イサム



4/27 ブナの一輪挿し

25日に開かれた、春の観察会。2年ぶりに早春の只見の空気に浸ることができました。折れていた枝からもらった

ブナの一輪挿しが、今日になって開花。ウグイス色の花粉がたくさん。発見でした！ 佐野



4/30 雪の力

昨年クリスマス前のドカ雪で毘沙沢ではたくさんの木が折れました。写真は折れたコナラです。ゆっくりと曲げられた幹は内部に剪断力が加わり、年輪に沿って破断した様子です。ナラの木はとても強いと思っていましたが、このようにばらばらに引き裂かれる……。雪の重みの威力が見て取れます。 毘沙沢



5/5 キツツキハウス

叶津番所の裏の木にアカゲラが巣を作ったようです。親が出たり入ったりしてるので雛がかえっているようです。3本となりの木には、ひよどりの姿も。こちらにも巣があるのかも。無事に育てくれるといいです。 こずえ



5/12 只見花だより

道路っ端の土手に咲いでだキクザキイチリンソウ。この上のほうでは、JR只

見線の復旧工事がさっちゃん。後ろさは、まだ雪が残ってだ。只見ではチャワンバナどって呼んるぞや。



これもキクザキイチリンソウの横さ生えっちゃん。ミヤマカタバミどっちゅう。国道252号わきの土手さあるのを写真撮ってと、ダンプカーがすま近くを走ってくるんで、おっかねえ。



ことしは、タムシバがたくさん花をつけでる。この花がいっぱい咲く年は、豊作になっちゃうごんだ。白く点々と見えんのが、その花だ。 イサム



5/15 日本タンポポ

叶津・五十嵐家の裏に日本タンポポ風のタンポポが群生しています。萼は上向きなんですが葉っぱが洋風でした。天気がよいので背負いかごの虫干し。ヒロロとシナッカワでできているかごは、大きなもので1.3mもあります。

こずえ



総苞外片の形を見ると、エゾタンポポでしょうかね。いわきでも割とよく見

られますよ。

大友

5/16 花暦調査とバードウォッチングの報告

花暦調査とバードウォッチングを檜戸沢林道でやったずや。ゆたじー隊長のもと、学ぶ会が誇る6名のナチュラリストが集結。曇天のなか、林道を散策してきたぞや。

ところどころに残雪が残る状況で、花にはちっと早え感じ。んじゃども、雪食地形の岩山のあちこちさ、マルバアオダモの白い房状の花が満開。それとウミズザクラの純白の花が咲き始めでだっけ。ユキグニミツバツツジは満開、ヤマツツジは咲きはじめ。

確認できた野鳥は、オオルリ、クロツグミ、キビタキ、サンショウクイ、ツツドリ、ヒヨドリ、ヤマガラ、ホオジロ、アオサギ、ハシブトガラスの10種類。意外に低調。

ちなみに写真は、ニリンソウの大群落に感激して写真を撮っているスペシャリスト(?)のみなさん。林道下の土手の斜面さ、ニリンソウの大群落が一面！ おみごとの一言。



ユキグニミツバツツジがまさかりだぞや。あっちこちさ点々と花をつけでる。雪国を冠した名前がいいな。モミジイチゴの花。これもさかりだっけ。モミジみでえな葉っぱをしたイチゴということでたいへん素直な命名。花は、みんな下を向いてっから、撮るのに一苦労。地べたがら、カメラを上さ向げんなんねえ。この日は、くもり空だったがんで、白抜きになっちゃった。



ウリハダカエデの雄花。花軸がまだ伸びでいねえがら、分かりづれえがもしんにえな。只見では、イイズクどっちゅう。オデシコ様（御大師講）の日、この

木の枝で箸を作って食膳にのせ、仏壇さ、供えんだで。いまでは、やんなくなっちゃったどもな。あど、この木の樹皮で、ニナワ（荷縄）を編んだじゅう。イイズクでつくったニナワは、たいした丈夫なあなだじゅう。



マルバアオダモの花。急な断崖に張り付くように方々に生えてだっけ。満開！ たいした丸くもねえのに「丸葉」という名前がつけらっちゃんのは解せねえな。



この木を切って、水さ挿しておくと、水の色が青色になっから青ダモという図鑑に書いてあっから、持ってきて、水さ挿しておいだども、一向に青くなんねえ。

イサム

只見は本当に自然が豊かですね。

以下、マルバアオダモに関してのヨメ情報です。マルバアオダモ。葉っぱが丸いから「丸葉」ではなく、他のアオダモ類の葉に比べると鋸歯が不明瞭なために「丸葉」がついたようです。

木を切って水に挿しておくと青色になるのは事実のようです。見た目は染まってはみませんが、青色の蛍光水になっており、紫外線を当てると綺麗な青色が見えるそう。

いわきではもう終盤に入っているマルバアオダモですが、私も名前の由来が不思議で調べた直後でした。サイト https://kinomemocho.com/kiasobi_aodamo.html に実験した人の詳細があります。名付けた人はすごい観察力を持っていたのでしょね。

大友

大友さんのご教示により、透明の器さ水道の水を入れて、マルバアオダモの枝を切り、まわりを黒のフェルトでおおってみだ。そしたら、なんと、切り口から青色の色素が流れだしてきたでねーの。あっという間に、器のなか

青色になっちゃった！それも、ものすげえ澄んだ青色！たいしたきれいで感動！皆さんも、ぜひお試しあれ！

イサム



5/20 今年初のトンボ

今朝、レタスの芽出しのトレイを見ていたらイトトンボが止まりました。朝日を受けて暖まっているのでしょうか。トンボを見るのは今年始めて。



この春にブナセンターから出た『ブナセンター紀要』No.9に只見町出身の角田亘さんが只見町のトンボ類を網羅した論文を発表しています。それで確かめると、成虫で越冬したオツネトンボのようです。「只見町では極めて個体数が多く、……」と書かれています。この原稿「福島県只見町のトンボ類(トンボ目)」は貴重な資料です。2000年から2020年までの調査に基づき只見町で確認された11科54種が紹介されています(カラー写真39点掲載)。この原稿だけでも500円払う価値があると思います(各号とも1冊500円)。ブナセンターに行ったら手に取ってみてください。

クマクラ

5/24 モリアオガエルの卵塊



2月に近くの国道沿いの家に引っ越したんですが、裏に池があります。朝、や

けにカエルの鳴き声がうるさかったので、池を覗いてみたら、水辺の繁みの中に卵塊が2つ産み付けられていました。こんな身近なところで見れるとは！さすが只見です！

ゆたじー

5/29 ヤマルリソウ

薄暗い林下、青っぽい光を放つ場所があった。近づいてみたら、ヤマルリソウの群落。こだにたくさん咲いてるのは初めて見だ、しばし見とれちゃった。福島県では準絶滅危惧種。愛好者に見つけられちゃら、たちまち掘り採られちゃもー。なんとか、はやく花が終わって実をつけてくれと願いつつ、この場をあとにしたぞや。

イサム



6/5 エゾハルゼミを見ました

庭のほうの木に止まったエゾハルゼミをはじめて間近に見ました。浜口夫妻



6/7 チューマ救助!



今朝、ブンド(ブドウ)にかかっている防鳥網さ、チューマ(ムクドリ)が引っかかっていた。チューマのお父さんがな？ がんじがらめになってだども、ハ

サミで網を切って逃してやった。「チューマの恩返し」なんてあつかな。イサム

6/7 ヤマトキソウ

ヤマトキソウ。ランの仲間。意外にも登山道のわきさ生えちゃっけ。ほかの植物なら育ててねえような場所だ。競争相手がいないえがら、自生できんだべなあ。人間に引っこ抜かれさえしねえば、安泰なんだが。

イサム



6/13 花暦調査 in 檜戸沢林道

曇天の下、檜戸沢林道には9人の精鋭が集結したぞや。花は、あんまりなかったども、18個の眼があれば、そこはワンダーゾーン。2個の眼で見るより、ずっと奥深い世界が広がる。センス・オブ・ワンダーっちゃう世界を、ちとばっか、紹介してみつおや。アリが種子を運ぶ代表的な植物は、カタクリ。種子にくっついてるエライオソームどっちゃう付属体を運ぶシーンは、図鑑や写真集によく出てくる。これがきょう、ばっちり見らっちゃ。ゆたじーの奥方、郁子アネがめっけだあなを、忍耐で撮影に成功したぞや。アリは、大顎で種子を引っ張りだしたあと、ポロっと下さ、落として、また種子あさりをしていたずら(写真左)。



右は、クモの巣に引っかかったカタクリの種子をアリが持って行こうとしているところ。近くにはクモが見張っている。くわばら、くわばら。

イサム

6/18 ヤマグワの花だらけ

今年は、どこもかしこも、ヤマグワの

真っ白な花だらけ。実も豊作だべな。
クマやサルは喜んべな。この材はたい
した堅い。んで、ユルリ（囲炉裏）っ縁
どか、ツチンボウ（木の槌）なんかに使
わっちえだだ。ちなみに、ヤマグワっ
ちゅうは、ヤマボウシのごんだあ。
写真は、おらいの川向こうの柴倉山の
裾野の崖斜面さ密集して咲いでだヤマ
グワの花。 イサム



7/12 ニホンアナグマ

今日の夕方の散歩で遭遇しました。何
を求めてか、ひたすら前を見て私達の
方に近づいてきました。顔を見てくだ
さい。生き生きと幸せそうな顔。この
地に住む動物たちはとても幸せなんだ
なと思いました。 昆虫沙汰



7/15 羽化

朝、家の壁でミヤマカラスアゲハが羽
化しました。羽化前のサナギ、羽化後
のサナギ殻、羽化したての蝶です。 明



7/24 セミの羽化

ねっか、はあ、あんま、暑っちえーもん
で動くのが億劫になっちまった。こ
れって老化？ 外さ出なくなったが
んで、センス・オブ・ワンダーがなくな
ってきた。
これは、今朝、子めら^めが見つけたアブラ

ゼミの羽化。夜でなくて、午前10時過
ぎの羽化。日が昇って、こだ遅え羽化
ははじめて見た。なんぼ暑っちゃぐで
も、歩けばなにかあるもんだ。 イサム



8/4 ゴホンダイコクコガネ

子めらが捕ってきたあな。街頭の下で
見^めつけたじゅう。糞虫で、獣のウンチ
を丸めて卵を産むじゅうごんだ。体長
は1cmぐれえ。しかし、奇怪な虫だ
ぞな。 イサム



8/8 花暦調査 in 檜戸沢林道

うだる暑さのなか、今月も集まったぞ
や。10人の精鋭たちが勢ぞろい。特筆
すんのは、鎌倉から駆けつけてくれた
龍成くん、6年生。夏休みの宿題をか
ねて只見の草花や虫の写真を撮りま
くっていたずや。Oさん夫妻の孫で、
みゆきさんは撮った写真の記録係。宿
題、がんばってけやれ。



ヤマドリ雌に、帰りしま、林道を横切
るところに遭遇。かなり緊張して渡り終
えたと思ったら、そのあとから、3羽
のヒナが草むらから飛び出して、母親
のあとを追ってったっけ。林道を歩
くと、ヤマドリやキジバトによく出会う。
エサ探しに、効率いいんだべな。



ウワミズザクラの果実。檜戸沢の出口
さ成っでだっけ。あんま、みずみずし
いので食ってみだ。赤い実は味なし。
黒い実はほんのかに甘い。鳥だったら、
よろこんで食うべな。



フクラスズメ（だと思う）。コアカソの
葉っぱで2匹^め見つけ。8cmぐれえある。
見応え十分なイモムシ。



つる植物、イケマの花。へだな名前だ
ども、アイヌ語からきているという説
がある。茎を折ると、白え汁がでる。こ
れは有毒。旅する蝶、アサギマダラの
幼虫の食草ちゅうごんだ。



ヒグラシは、鳴いてなくてもあっち
こっちで見らっちゃ。



ツクツクホウシは、うるせえほど鳴き
交わしてるくせに、めっけらん^めにえ。
樹皮に擬態していてわかりにくいんだ
ろか？ イサム

クサギの花が満開でした。花は案外よい匂い。葉っぱは、かなり嫌な匂いかも。それとソバナも満開でした。 和子



8/8 コエゾゼミ

花暦調査の帰り道、捕まえたセミは調べたらコエゾゼミでした。てっきりエゾゼミだと思っていた。今も外ではエゾゼミが鳴いていますが、これもコエゾゼミか？ 明



8/15 只見湖がオオハンゴンソウだらけ

只見湖の河岸が、特定外来生物オオハンゴンソウだらけだぞや。一面、真っ黄色。生態系を乱す極悪植物に乗っ取らっちゃった。いままで生育していた在来種は、締め出さっちゃべな。これ、ゼーんぶ、人間の仕業。 イサム



田島さいぐとバガ酷くて、只見はさほどでなくてええなあ…、と思っていたら、やっぱりな。昨日、お墓にお供えしている人もいたなあ。 サナエ

8/25 コナラシギゾウムシ

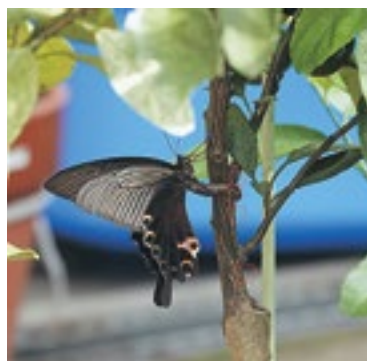
いま、コナラの林ん中さ、入っと、2、3枚の葉っぱをつけたシダミ（ドングリ）がたくさん落ちでつつおや。よく

見っと、シダミの殻斗（かくと）さ、茶色い染みのようなあながある。その犯人がこれ。体とおんなじくれえある長え口吻を殻斗さ突っさして産卵すんだ。1cmにもなんねえ小っちゃ虫だ。たまたま、おらいの窓さ飛んできたのを、捕まえて撮ったんだだども、じっどしてねえもんで難儀しただえ。 イサム



8/25 アゲハの産卵

おらいの庭先さ、ミカンの鉢植えがある。そこへアゲハがヒラヒラしつこく飛んでいだけ。よく見でみると、産卵中。写真には4個の卵が見えんぞや。しかし、この卵は^{孵化しても}むえでも、退治しなんねーな。ミカンが食えなくなっちゃう。 イサム



ブナセンターのOさんに確認したところ、クロアゲハだそうです。 たーべ
その後のアゲハ

8/27 鑑定してもらったクロアゲハの幼虫だぞや。まーるで、鳥の糞！ ちょっかい出して、臭角が伸びっちゃったども、そのまま葉っぱさ、はっついでつと、糞にしか見えねー。これも、造化の妙というべきか。



9/20 あの鳥のフンから、20日あまり。こだに、りっぱにないやった！ クロアゲハの終齢幼虫だぞや。 イサム



9/3 アオサギを食らうクマタカ

自転車で伊南の方へ行った帰り、南会津町和泉田の上手、県道と並行して走る農道を走っていたら、なにか灰色のものが目の端に動いて見えた。一瞬走りすぎたけれど、戻ってそっと近づいてみたら鳥の羽が散乱しているのが見える。それでもう少し近づいたら、目の前のくぼ地になんとクマタカ。獲物は散乱する羽からするとアオサギリしい。とりあえず携帯で写真と動画を撮った。



獲物に乗っているクマタカはすぐに逃げそうになく、連絡しないと、また「クヤシー！」と言われそうなので、勇さんに電話してみた。「スグ行く」と言うので、待つこと30分。駆けつけた勇さんと合流した。

たいした写真が撮れたようなので、続編は勇さんから。 クマクラ
はい、はい、行ってきたぞや、撮って来たぞや。アオサギを食らうクマタカ。クマさんから連絡もらって、直行！ 昼飯前だったども、あんまり、興奮しないで、腹減ったのも、忘れちゃ。



クマさんに場所を教えてもらって、しばらく車内で観察。車の中でじっとしてる男2人、近くを通った人は、怪しい関係の男がいると思ったべな。クマさんといううちは、クマタカは、アオサギに手をつけながつけ。おらだちを警戒

していただな。クマさんが自転車に乗って帰り、30分くれえたつたころ、やっとこさ食い始めた。食いつけば、あとは、無我夢中。おらの目の前、5mぐれえの場所だ。羽をむしって、肉片を飲み込むどこを、たっぷり堪能したずや。はあ、天にものぼる気分。



夕方ごろになって、雨が降り出してきたんで、もはや、これまでだと思って、車から出てみだ。そしたら、アオサギの体をつかんでちっと移動したあと、近くの杉林の中さ、逃げ込んだじまったつて。

食い残したアオサギは、このとおり。頭と首と脚しかながつけ。というごどは、およそ3時間もかけねえで、アオサギの胴体を丸ごと食っちゃったつちゅうごんだ。驚異的な大食漢！これは、感動もんだぞや。 イサム



9/5 タヌキが!

昨日、午後4時半頃、「むら湯」の休憩室で休んでいたら、窓の外に見慣れぬ動物が。タヌキの子どものようです。餌を探してうろうろしていました。 信



9/7 フィギアみでえなイモムシ

チソっ葉の上で、フィギアみでえなイモムシ、見つけ。なんと、コンテンポラリーなデザイン。セスジスズメの幼虫。角がある方が尻

尾。先っぽの細くなっている右側が頭。旺盛な食欲で畑作物を食い荒らす害虫らしいども、前衛的な配色はカッコいいな。 イサム



9/8 外来種カミキリ

外来種のカミキリが今日の新聞に紹介されていました。私がまだ気がつかないだけかもしれませんが、こちら雄国山麓では、まだ確認していません。もしもこちらでも発見されたらヤバイ！セイタカアワダチソウ、コウリンタンポポ、オオハングンソウとかアメリカザリガニとか…。また、その仲間が増えたみたい。 珊瑚



9/14 只見花だより

ミヤマママコナ。ペロ(舌)を噛みそうな名前だども、「深山飯子菜」と書く。突き出した唇弁の中さ、まんまつつぶ(ご飯粒)みでえなあなが2つつあッや。それが名前の由来。いま、登山道わきさ、いっぺえ咲いでんぞや。



ホソバコゴメグサの花のクローズアップ。茎は針金のように細くて、鉛筆ぐれえの草丈。葉っぱは、長さ1センチ前後。「細葉小米草」と書き、米粒のように小っちゃ花を形容した。山の尾根などのお日当たりよい乾いた場所に生えてん

ぞや。

イサム



9/18 狩蜂、青虫を襲う!

家の前、ゆんめってさ出たら、青虫を運ぶ蜂がいた。ひょっとして「狩蜂?」と思って近寄って見たら、ピンポーン! かのファールが愛した狩蜂が、わが子の食料にする青虫を運んでる真つ最中だった。さっそく、カメラを取ってきて、追跡開始!

この狩蜂は、ジガバチの仲間だべな。本来なら青虫を抱えて飛ぶんだべが、獲物がデカすぎて飛行不能。腹の下さ抱きかかえて、すばやく歩いていく。ゆんめってから、国道252号上を車を避けながら一目散に横断。農道をつっ走って、車庫裏の築山さ登る。行く先さ小っちゃ穴が空いてる。それが目的の巣穴。穴の前っ手さ青虫を置くと、巣穴さ頭を突っ込んで、フタにしていたらしい小石を掘り出した。穴が開いたらしく、今度は青虫を頭から引っ張り込み始めた。

大きな青虫だども、テキパキとした裁き。動きはすばやく無駄がない。

青虫を入れ終えろと、狩蜂だけ姿を現し、近くの小石を運んで穴をふさぎはじめた。最初に小石を詰め、穴がふさがってくると、土を集めて、ていねいにふさぐ。まったくもって手際がいい。終わったあとは、もう穴の位置すらわからない。



土のなかさ運び込まれた青虫は、狩蜂によって腹ん中の神経節さ麻酔されて動くこともできねえ生き埋め状態。そこさ狩蜂に卵を生みつけられ、孵化した幼虫に少しずつ食われていく。はじ

めは、ダメージの少なえどこから食わっちえいくじゅう。でっかくなってくっと、致命的なところを一挙に食って成虫になるじゅう。殺さず、腐らさず、ちっとずつ食われっちもう青虫。まったく生き地獄だぞな。

この青虫搬入の際を狙う寄生蠅がいるっちゅう。この蠅は、卵でなくウジ虫を巣穴の入り口さ生みつける。そのウジ虫は巢内さ入っと、狩蜂の幼虫より先に青虫を食っちもうじゅう。そだごとがあっから、狩蜂は手際よくやってんだべな。

なんとも、みんなして、すんげえ進化！自然っちゅうは奥が深えもんだ。

イサム

9/30 アオマツムシが鳴いた!?

今夜7時過ぎ、おらいの庭のシダレザクラの木の上で、かなりの音量で鳴く虫がいた。さて、このうるさい鳴き声は、聴き覚えがある。そう、会津若松市や郡山市、新潟市などに行って、夜になると、道路の街路樹から騒音のように鳴いている虫とおんなじだ。姿は見えねえども、鳴き声には特徴がある。

アオマツムシは、都市に棲む虫だどばっか思ってたども、今夜、初めて只見で聞いた。9時過ぎに、外さ、出てみると、鳴いていながっけ。気温が急に下がったがらな？

この虫は、明治時代に入っていた帰化昆虫だっちゅうごんだ。こだ、にぎやかな虫が増えで、あっちこちで鳴き出したら、嫌だなあ。

たーべさん、今回の件は、ブナセンターの虫の専門家さ、聞いてもらんにえがな？ 初記録でねーがな？ イサム
ブナセンターのOさんに聞いてみたところ、Oさんも只見に来てからここ最近になって初めて確認したとのことです。またアオマツムシは、若松や中通りではもう普通になり、ここ20年の間に、分布していなかった山形にも広がったとも言っていました。 たーべ「ここ最近になって」とは、いつ頃のこと？ と突っ込みたくなりますが、2021年9月30日をもって「只見初記録」にしたいと思います。

夏の暑苦しい夜、あのように騒がしく鳴かれると、ますます暑く感じられます。ちなみに、きょうは鳴いていません。やはり気温が関係していると思います。

あまり歓迎できない虫です。 イサム

10/10 花暦調査 in 檜戸沢林道

晴れ晴れとした天気なんで、リンドウもパッチリと花を咲かせていたぞや。これはどこにも虫食いのねえ容姿端麗なリンドウ。



アクシバの実。ツツジの仲間だども、秋は赤い実が多いな。



ツリバナの実は、まったくUFOのようだ。真っ赤な果実は、長い花枝で垂れ下がって5つに裂け、その先っちょさ、これまた濃いオレンジ色の仮種子をぶら下げる。なんとも奇抜な実だごと。



クサギは、花も実も独特。とくに実は黒と赤のてるてるぼーずが集まってるよーだ。



ミヤマニガウリは、ウリ科の植物。ウリ独特の匂いがある。きょうは、花と実の両方見らっちゃ。花は子房の先っちょさ付いでる。下の方で3つに裂けるあなが種子が出たあとの果実。こ

の種子は、意外とでっけえ。黒くて長え種子が3コ入ってだっけ。 イサム



10/19 ハヤブサ

小雨のなか、1羽のハヤブサ発見。フクロウみでえに、頭を自由自在に回して獲物を探してだっけ。



そういえば、ハヤブサは、いままではタカ目に分類され、ワシタカの仲間とされていた。んだども、こんだは、新しくハヤブサ目^{今度}っちゅうのができて、そこさ入っちゃった。ハヤブサは、ワシタカとは遠縁になって、なんとオウムに近い鳥だっちゅう。

ハヤブサとオウムが近縁なんて、あれま!? と思っちゃますが、分子生物学が発達して遺伝子レベルではそうなるらしい。そういわれてみると、丸い頭と目なんかは、似でっかもしんにえーな。

イサム

10/30 ムハハハハハ……!

これ、なんだっちょ？ おら、ねっかはあ、ハイテンション！ イサム



こんばんわ。ノゴマですか？ 菜緒子さすが、菜緒子さん。ピンポンだぞや！ 今から21年前、うら若き麗人

(どっこいしょ!)だったカッコネーは、自宅近くを散歩中にひろって、オライさ届けてくれたごである。

ちなみに、この鳥は夏鳥だとも、北海道で繁殖する鳥。なので、北海道でしか見られない。春と秋に、本州を通過するんだとも、宝くじと同じくらい当たることはねえ。それが、今回で2度目の記録。ひょっとして、只見はノゴマの通過地になってんでねーの!

このノゴマは、きょうの夕方、自動車のガラス窓さ、ぶつかってお亡くなりになったホヤホヤのあんだ。あしたは徹底的にいじくってやつつおー。イサム

11/7 花暦調査 in 櫛戸沢林道

今年最後の花暦調査。花はセイタカアワダチソウ以外はなかったとも、紅葉真っ盛り。7人での紅葉狩りを兼ねた昼食会は気持ちよかったな。

ヤスマツケシタマムシ 名前と姿は、奇妙キテレツ。朗くんがヒロロ(ミヤマカンスゲ)の葉っぱの上で見つけた。吹けば飛ぶようなちっちえ虫。こんじえ、タマムシの仲間だちゅう。なんでも福島県では只見でしか確認さちっちえねえあんだ。まあ、老眼鏡の厄介になっている人には、いじるのはむずかしいべな。



これも朗くんがフキの葉っぱの上で見つけた冬虫夏草。アブのようだともちっちえ。若えものの眼力には叶わねえ。イサム



11/17 チョウゲンボウ発見!

9月ころから来てるちゅう情報はもらってたとも、やっとご見つけた。只見初確認。

この鳥は、河川敷なんかのダダっ広い

ところで、ネズミを食ってる。会津平の阿賀川にはいっとも、途中の三島町や金山町あたりは峡谷だがんで生息地にはなんねえべな。そういう意味では、只見は生息地としては適してると思う。こらから棲みつくだいいな。イサム



11/19 今夜の月食

今夜、午後6時8分撮影。限りなく皆既月食に近い部分月食ちゅうごんだとも、どんなもんだかな? 7時近くになったら、雲が出てきて見えなくなっちゃった。イサム



11/20 ドーナガ

ドーナガちゅうは、「胴長」の意味で、頭だけ立っていて、身体が横に長く伸びているように見えから。正しくはカワイイサ。頭が緑色で身体が白いのオス、赤茶色のボサボサ頭をしたあながメス。カップルになってんな。はあ、出来上がってるちゅうごとは、どっちもマセだアイサだ。



この鳥は、メジャーな水鳥飛来地にはあんまりいねえ。北海道にはふつうにいっとも、本州では多くはねえ。只見みでえな山奥にけっこういる鳥だあ。

イサム

11/21 ムラサキカタバミの群落発見

要注意外来生物に指定されてるムラサキカタバミを只見ではじめて見つけ。場所は、長浜字唱にある長浜用水の縁。季節外れだとも、全部咲いでいだけ。



近くの嫁さんに聞いたら、「おらいの家の周辺にも、たくさん咲いでる」ちゅう。見てみたら、縁側にも群落。「採っても採っても、増える」どって家の人はいうども、これはおそらく「ご先祖さまが、嫁さんが来る前に、^{自分の家}わーがいさ持ち込んだあな」と推察したな。この花は、都市部ではふつうに見られる雑草。だとも、只見から行った人は、「きれいで珍しい」どって持ち帰り、家さ植えて増えだんだべな。こだ例には、セイタカアワダチソウ、オオハンゴンソウ、コウリントンボポなど、いっぺえある。善意の無知がもたらす生態系破壊だべな。イサム

12/16 クマタカに遭う

冬もとどまって暮らす猛禽には、イヌワシとクマタカがいんだが、いまが恋の季節なんだ。ディスプレイ飛行といって上下にジグザグに飛ぶ。葉っぱが落ちて、うっすらと雪化粧したこの時期が見つけやすく、絶好の観察チャンスちゅうわけだ。

きょうはくもり空の下、松の木に止まっているクマタカ若鳥を発見。両方の翼を広げて1時間くれえ動かねえでいだな。これは狩りではなく、翼を干していたようだ。みっちりど堪能してきたずや。イサム

